

# 若者の地域づくり後押し

## 宮古でワークショップ

県内の学生ら若者が取り組む地域活動を後押しするイベント「第1回地域づくりワークショップ」が、宮古市河南の県立大宮古短期大学部(宮古短大)で開かれ、高校生・大学生ら36人が参加した。参加者らは講話を聴いての質疑応答やそれぞれの活動を報告する事例提供、テーマ別のワークショップで世代を超えて交流し、お互いの地域への意識を高め合っていた。【三瓶杜萌】

冒頭の講話では、防災教育事業を進めるNPO法人「まぐらネット」の河田のどかさん(31)が全国の防災学習活動を紹介。活動を行う子どもたちの思いや地域の反応についても語り、「災害のため、というよりも、地域の人たちのため、という意識で防災活動をするのが大切」と訴えた。



「働く」がテーマのワークショップで意見交換する学生ら—宮古市河南の県立大宮古短期大学部で

## 参加者ら意識高め合う

会場からは「地域に途中から入ってきた大学生はどうやって防災すればいい?」などの質問が相次ぎ、防災活動への関心の高さがうかがえた。続く事例提供では5団体が活動を発表した。岩泉高校の生徒らは2017年から行う地域探究型学習「KIZUKIプロジェクト」を紹介。グループごとに地元の商店や民が町のよさをもっと理解し、町づくりにつながっていくようにしていきたい」と締めくくった。ワークショップは①働く②踏み出す③伝える④仲間づくり—の4テーマに分かれて意見を出し合った。宮古市内で地域活動を行うNPO法人や市社会福祉協議会職員がコーディネーター役になり、高校生や大学生から

町と協力し、商品開発やキャンペーン活動などを行う取り組みで、活動を通じて売り上げが増えた店もあった。発表した柴田佳史さん(2年)は「町」という。他の高校生

の取り組みや思いを聞いて刺激を受けた。若者がいいな、と思える地域をつくっていきたい」と目を輝かせていた。ワークショップは来年1月19日に第2回を予定。次回は地域活動の取り組み方について考える。詳しくはNPO法人「いわてGINGA-NET」(0800・6076・35880)。